

## (2) 「新型インフルエンザ」はどうなったの？

そもそもインフルエンザウィルスは、鳥や豚など動物の間で流行していた病原体でしたが、それが人間への感染力を獲得したものです。A 型・B 型・C 型と分類されますが、そのうち大きな流行の原因となるのは A 型と B 型です。インフルエンザウィルスは形を変えやすい性質を持っています。形が変わるとそれに対する免疫力を私たちは持っていませんので、大きな流行となります。

現在流行しているのは A/H1N1 亜型、A/H3N2 亜型（香港型）、B 型の 3 種類です。平成 21 年に流行した「新型インフルエンザ」（AH1pdm09 と名づけられています）は A/H1N1 亜型の一つです。当初は通常のインフルエンザ（季節性インフルエンザといいます）に比べると、より若年層での流行があったこと、重症化しやすい傾向があったことが指摘されていましたが、流行が進むにつれて季節性インフルエンザと大きな差異がみられなくなってきました。そのため厚生労働省は今年の 3 月 31 日に、新型インフルエンザは季節性インフルエンザに移行したと宣言しました。

## (3) 予防接種の効果は？

インフルエンザにかかりにくくなり、かかったとしても重症化を抑える効果があります。A/H1N1 亜型、A/H3N2 亜型（香港型）、B 型の混合ワクチンですので、どの型が流行しても効果があります。「新型インフルエンザ」（季節性に移行しましたが）にも効果があります。

毎年、その年に流行しそうな型を予測して製造されますが、インフルエンザウィルスは突然変異を起こしやすいので、その場合は効果が低下します。しかし近年は予測技術が進歩しており、実際の流行の型とほぼ一致しています。

接種してから効果が出るのに 2 週間かかります。毎年、本格的な流行は 12～1 月頃ですので、できれば 11 月に、遅くとも 12 月中旬までには接種を受けておきましょう。

